



政治局常務委員に選ばれた6人は習近平総書記(国家主席)に、せめて孔子も勧める諷刺がでるだろう。ロシアでも、ウラジーミル・プーチン大統領の無謀なウクライナ侵略をいさめる者はいなかった。



山内 昌之
武蔵野大学特任教授

革命の亡霊

独裁制 いさめる者なし

習氏とプーチン氏は、必しした。確かに、李克強首相は、習氏とプーチン氏に匹敵するが、それ以上の権力を行使してきた。この3国がいまだに拭えないのは、「革命の亡霊」である。それは、20世紀の革命による独裁制と代行主義の亡霊といってもよい。

1917年のロシア革命と49年の建国に至る中国革命は、91年のソ連解体と89年の天安門事件で外見上、共産主義イデオロギーの放棄と継続という別の道に分岐したかに見えた。しかし両者は、資本主義的経営と外



1面の続き

山内昌之氏 1947年札幌市生まれ。米ハーバード大客員研究員、東大中東地域研究センター長を歴任。東大名誉教授。神田外語大客員教授。

もれない。かつて哲学者チョフ元ソ連大統領に対し「ヘルベルト・マルクーゼは、大学生ならを含めた知識人」の役割を強調し、ハセーナ・アレントは中央集権的な政党でなく人々が選んだ「評議会」を改革の活力として重視したものだ。これらは、ロシアと中国に残存する革命の亡霊と対照的である。

中国に話を戻せば、共産党大会の最終日における胡錦濤前国家主席の退場ぶりあれ、前任者に対して払われるべき敬意が感じられなかった。敬老の心や長幼の序を大切にしている中国人や日本人には、不自然な印象を与えたのではない。

「海」への野心 米欧と摩擦

の自由がまだある。ロシアでは核兵器使用の危険や成年男子の徴兵に反対する全国レベルの動きは鈍い。中国では習氏の都市封鎖や武力による台湾統合に反対する集会などは、空想的にも考えられない。

イランで生じている政治現象は、女性がいまだに以上「革命」「社会運動」の主体となる新たな動きがなくなったミハイル・ゴルバ

たのである。私はその折に「ホメイニとゴルバチョフ」という論文を書き、ホメイニ師の宿願がイラクと湾岸諸国だけでなく、ソ連領だった中央アジアとカフカスのイスラム教徒を「無神論者の支配」から解放する点にあると分析した。ソ連解体とともに、これらの地域は主権国家として独立し、イランで起き

が、イランへの野心の基盤を「海」から海までつな

英文は金曜日(土)のジャパニクニースに掲載予定です

2022年11月6日(土)
読売新聞 朝刊